
運命の人

慶太

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

運命の人

【Nコード】

N5817D

【作者名】

慶太

【あらすじ】

ある一人の男の恋愛歴です。彼の女性に対する見方が書き表されています。

(前書き)

つまらんよ

俺にとって女はただの玩具だ

ある程度可愛がって欲しいものの一つでも買ってやれば

直ぐいい顔する中には頑丈な奴もいるけどそういう奴に限って意外と脆い

ただ優しくして相手の心を満たしてやる『こんな私で・・・』なんてやる前から

テンションの下がる言葉を吐く女には「君でいいんじゃないって君がいいんだ」なんてセリフで女を喜ばせる。こんな古い言葉で同じこと繰り返してるだけで

恋愛ゴツコは簡単にできる。今までに純粹に恋をしたことなど無いきつとあの時からそう、17の春、彼女に恋をしなければきつと今より女を見る目が変わっていったらうその女性^{ヒト}は

保健室の保健婦で俺好みの甘い香水を付けた如何にも女性らしい人だった髪はセミロングで何時も一つ縛りで黒髪と紺のエプロンが似合う華奢な人だった

母親を早くに亡くした俺は多分、何所かで彼女に母親の面影を抱いていたのだろう

生徒には何時でも万弁の笑みで優しく接している時に叱ったりするそんな彼女に俺はただ惹かれていたそんな反面相手にされないことも理解していた。けれど当時そんな俺にはその気持ちを止めることが出来なかった。毎日正門まで来ると保健室の窓を見る

教室から遠回りなのに態々ドアの開いている保健室の前を通る其処に椅子に座って机に新聞等を広げて目をやる彼女の姿。そして、長い休みには他のやつらと同じに保健室へ紛れ込む

勿論授業をサボって彼女の所へ行くこともある

そんな時は下手な芝居でも打ってベットの上で天井とにらめっこ休み時間になるといい加減にしなさいと言う感じで彼女が現れる

そんな彼女が好きだった・・・。

あの日までは俺は髪結いを彼女の誕生日にプレゼントした

一緒に探させた女友達にはしつこく聞かれても何も答えずに
授業をサボって彼女に告白した

ただ・・・片思いで終わらせたくなかった振られてもいいと思った

(後書き)

つまらんかったろ？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5817d/>

運命の人

2011年1月13日01時23分発行